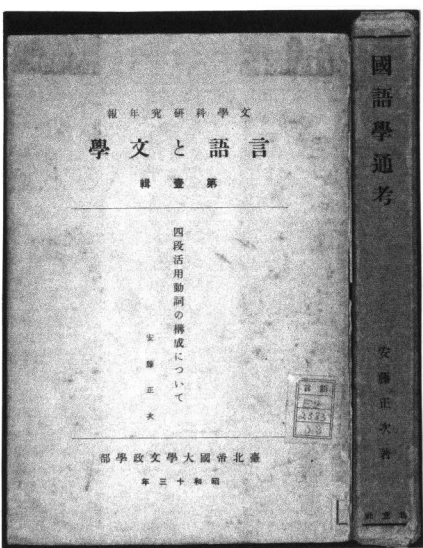


安藤正次 あんどう せいじ 國語學者、文學博士。明治十一年九月十二日東京生
 丸、昭和二十七年十一月十八日没（二六六—一九三二）。明治三十二年神宮
 皇學館本科卒、二十七年東京帝國大學文藝科大學選科（言語學科）卒。
 大正十五年臺灣總督府在外研究員として言語研究法及び國語政策研究
 のための歐米四カ國に在留。歸國後昭和二年臺北帝國大學教授、十六年
 總長。戦後は東洋大學學長、國語審議會會長等歴任。短歌を能くし、
 歌集『木麻黄』（昭和十四年十一月十二日刊）一卷を殘す。

著書の『外來語問題に關する獨逸に於ける國語運動』（保科孝一共著、大正七
 年七月二日文部省）、『外國に於ける國字問題』（保科孝一共著、大
 正八年七月二十三日文部省）、『古代國語の研究』（大正十二年二月
 二十日内外書房）『内外思想叢書』（一）、『小まゝの國語學』（大正十二年
 八月十日廣文堂書店）、『國語學通考』（四版・昭和九年一月二十五
 日共立社）、『四段活用動詞の構成について』（『言語と文學』第壹
 輯・昭和十二年二月二十一日臺北帝國大學文政學部論刊所收）、『直
 民靈一神の道とままと心』（昭和十五年九月八日教學旬編）『日本精神
 叢書』（一）『國語國字の問題』（昭和二十一年一月二十日河出書房）『教
 育文庫』（一）、『國語と文化』（昭和二十一年七月二十五日創元社）『日
 本文庫』（一）等の他、譯書『獨逸小
 學讀本』（保科孝一共譯、上・大
 正十年八月、二十日、下・十一年一
 月二十日世界社）『文庫刊行會』『世界國
 民讀本叢書』（一）、『ゴッテツの讀本』
 ）『水野葉舟繪』、昭和二十二年三月十



八白春陽堂書石「春陽堂文庫」()
みどり。